

日 時 平成25年6月19日(水) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番 中田博文	2番 工藤和行
3番 黒石ナナ子	4番 今井敬
5番 工藤禎子	6番 佐々木隆
7番 後藤秀憲	8番 大久保朝泰
9番 大溝雅昭	10番 工藤俊広
11番 工藤和子	12番 山田鋏一
13番 福士幸雄	14番 北山一衛
15番 村上啓二	16番 村上隆昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長 鳴海広道	副 市 長 玉田 芙佐男
総 務 部 長 成田耕作	企画財政部長 後藤善弘
健康福祉部長兼 福祉事務所長 村元英美	農林商工部長兼 バイオ技術センター所長 永田幸男
建 設 部 長 工藤伸太郎	総務課長兼 検査指導監 阿保正一
人 事 課 長 沖野恵美子	市民環境課長 木川一雄
企 画 課 長 千葉 毅	財 政 課 長 鈴木正人
健康推進課長 木村 斉吾	福祉総務課長 鎌田幸男
高齢介護課長兼 地域包括支援センター所長 山口幸誠	農 林 課 長 兼 バイオ技術センター次長 玉田純一
建 設 課 長 真土 亨	農業委員会会長 佐山秀夫
選挙管理委員会 委 員 会 長 乗田兼雄	監 査 委 員 廣瀬左喜男
教 育 委 員 会 長 村上良子	教 育 長 阿保淳士
教 育 部 長 奈良岡和保	学校教育課長 山谷博文
文化課長兼 市民文化会館長 成田秀範	黒石病院 事業管理者 柿崎武光
黒石病院 事 務 局 長 沖野俊一	

会議に付した事件の題目及び議事日程

平成25年第2回黒石市議会定例会議事日程 第3号

平成25年6月19日(水) 午前10時 開 議

第1 会議録署名議員の指名

第2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事 務 局 長 境 裕 康

次 長 三 上 亮 介

次 長 補 佐 太 田 誠

主幹兼議事係長 佐々木 聖 人

会議の顛末

午前10時02分 開 議

◎議長(中田博文) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第3号をもって進めます。

◎議長(中田博文) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

5番工藤禎子議員、8番大久保朝泰議員を指名いたします。

◎議長(中田博文) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

昨日に引き続き、順次質問を許します。

4番今井敬議員の登壇を求めます。4番今井敬議員。

登 壇

◎4番(今井敬) おはようございます。自民・公明クラブ今井敬です。

2日目トップバッターとして一般質問させていただきます。その前に、つい先日、ゴマ煎餅を食べまして、前歯が1本なくなりまして風通しがよくなり大変聞きづらいと思いますが御容赦をお願いします。

さて、4月、5月と異常の寒さで、桜・りんごの開花がおくれ、あわせて田植えもおくれ、心配続きでしたが、6月に入り好天が続き、ほっとされたのもつかの間、今度は雨が少なく梅雨に入り、空梅雨模様でまた心配の声が聞こえてまいりました。苦あれば楽あり、楽あれば苦ありと申しますか、天気と自然は我々の願うようにはなりません。

当市議会も改選後前半の2年が過ぎ、折り返し点を通過、その間第一弾として、議会報告会の開催、第二弾として、私も編集委員の1人として6人が力を合わせて誰の力も借りず限られ

た予算で、ついこの間議会だより第1号発行、徐々に議会改革も進み、まだまだ前進・努力が必要と感ずる次第であります。

国政を見ると、アベノミクス3本目の矢が、経済成長戦略として放たれ、いよいよ正念場を迎え、株高円安が乱高下しておりますが、中央では少しは活況が見えてきたとマスコミが大騒ぎしております。しかし、我々地方では、まだまだトンネルの中ではないでしょうか。過去の池田勇人総理の「所得倍増計画」、田中角栄総理の「日本列島改造計画」と、高度経済成長期もありましたが、日本の将来、我々の生活向上が「吉」とでるか、「凶」とでるか、私自身も正直いって不安を隠せません。そんな中、先月青森市出身の冒険家でプロスキーヤーの三浦雄一郎さんが、5月23日史上最高齢の80歳7カ月で世界最高峰のエベレスト8,848メートルの登頂に成功。高齢化が進む日本社会で、大きな意義があり、全国の高齢者の方々に希望と勇気を与えてくれました。頂上到達後「80才でもまだまだいける」、「世界最高の気分」、そして「生きてる限り夢に挑戦」と喜びを語った姿を見て大変感動いたしました。

我が黒石、鳴海市長もまだ70をちょっと出たばかり。まだまだいけると、勇気、元気、やる気がみなぎったことと思います。我々60代、三浦さんから見ればまだまだひよこに過ぎません。「年齢を超えて自分はどこまでできるのか」と自分自身、不屈の精神で挑戦することがいかに大事であるか、三浦さんに教わったことが多かったのではないのでしょうか。老いても目標を見つけ、挑戦する姿、気持ち次第で年齢の限界さえ超えられると、これからの高齢化社会を生き抜く教訓ではないのでしょうか。

私も65歳。今回の一般質問では一番の高齢者であります。前回11名、今回8名の一般質問者となりましたが、少々寂しい気もいたすわけでございます。私も任期中、一般質問連続フル出場を目指し挑戦続ける覚悟であります。

それでは通告に従い、限りなき市民の幸せを願い、一般質問いたします。

第1として、高齢者見守り宅配便事業についてであります。

今年1月厚労省の「国立社会保障人口問題研究所」の調べで世帯主が65歳以上の高齢者世帯が22年後の平成47年には全世帯の40.8%を占めることがわかりました。全都道府県で30%を超えトップの秋田県43.8%、次いで青森県41.5%、高知県40.9%と、日本は猛烈な勢いで高齢化に突き進んでおります。世帯構成ではひとり暮らしの高齢世帯の増加率が最も高く、平成22年の498万世帯に比べて1.5倍の762万世帯となるそうです。原因は晩婚化、未婚化の進行、離婚の増加、親との同居率の低下と分析しております。そこでお聞きします。当黒石市の20年後の65歳以上の高齢世帯数と独居世帯数いわゆるひとり暮らしの見込み数と割合をお聞かせください。

そこで今年1月当鳴海市長は、先見の目が鋭いというか、高齢者を思う気持ちが強いというか、いち早く、全国初となる高齢者の孤立と孤独死防止を強化する、と市内のひとり暮らし高

高齢者の安否確認のため宅配便大手のクロネコヤマト運輸と共同で4月から「見守り宅配便サービス」を始めると発表。ほかの見守りサービスと違って、市の刊行物を宅配に乗せ、ひとり暮らし全戸漏れなく配送、安否確認できるのが特徴としており、ヤマト運輸としても、全国初の事業の試みとなり、毎日新聞全国紙にも掲載され、話題性を呼び、他の自治体も注目しております。私もついこの間まで、民生福祉副委員長として、何回か質問させていただき気になっていた案件なので、この苦しい財政の中、よく実現できたと敬意と大きな拍手を送りたいと思います。

そこでお聞きします。ヤマト運輸と契約に至った思いと、経緯、そして予算の中身をお聞かせください。それから市の刊行物を月1回配送、ヤマト運輸ドライバーが受領印をもらう際に安否確認とありますが、どのような刊行物でどのような方法で報告を受け、処理するのかお聞きします。それから既に4月、5月と実施されたと思いますが、結果・報告の内容等どうであったのかお知らせください。また、今後の効果の見通し、目標と、ほかに民生委員の方々など、ひとり暮らしの高齢者に対する見守りサービス支援をいろいろやっておられると思いますが、活動状況などをお聞かせください。

第2として、小型家電リサイクル制度についてであります。

廃棄物の減量資源の再利用を目的とした、環境省の「使用済み小型電子機器再資源化促進法」が昨年8月成立。不用となった携帯電話など小型家電のリサイクル制度がこの4月1日から始まりました。都市鉱山と呼ばれ、小型家電のパソコン、小型ゲーム機など、約100品目で、別の法律で義務づけられているテレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、乾燥機を除くほぼ全ての品目となっており、小型家電から貴金属や、レアメタルを回収再利用するのが狙いであります。使用済み小型家電は、年間65万トンが発生、そのうち、有用金属は約28万トン。金額にして844億円相当の価値があると言われております。今まで各自治体は大半を不燃ごみとして埋め立て処分してきましたが、各地で最終処分場の確保が困難になってきており、また、中国などアジア地域で日本から流出した廃棄家電の不適正なリサイクル処理による環境問題も発生しております。そこで4月から市町村が回収し、16種類の金属を再資源化するとなっておりますが、制度に参加するかどうかは義務ではなく、地方自治体の判断に委ねられており、取り組みには自治体によって温度差が出ておると聞きます。

全国で30%強の市町村が参加を表明しているそうですが、そこでお聞きします。当市として今後どのように取り組んでいくのかお聞かせください。それから、参加するのであれば、回収箱数設置場所、回収方法などどのように考えているのかお伺いします。また、消費者側は基本的に無料と考えますが大型製品などの費用負担があるのかもお聞かせください。

市町村は回収した製品を国の認定事業者を引き渡し、専門業者が、金、白金、パラジウムな

どのほか、鉄鋼といった通常の金属も含め、16種類を取り出すとしていますが、各作業にかかる費用は再資源化した金属を売って得たお金で賄う仕組みとなっているようですが、そこで、財政面での負担、採算性・コストなどの問題はどうか、回収量の見込み数や、国の補助の内容等どうなっているのかあわせてお伺いいたします。

第3として、最後の質問となりますが、浅瀬石城跡の史跡公園化についてであります。資料によりますと、今から29年前の昭和59年2月、当時の黒石市文化財保護審議会が、千徳家の居城であった浅瀬石城跡の史跡公園化構想を打ち出し、史跡公園を目指すべきであると答申を出しましたが、今まで進展もなく、調査など具体的動きもなかったようで、構想自体も忘れ去られようとしている今、いつやるんですかと聞かれたら、それはいまでしょう。と私は声を大にしたいのであります。

今こそ歴史文化を見直す時期ではないでしょうか。NHKの大河ドラマ、昨年の平清盛、ことしの八重の桜もそうですが、日本各地での大河ドラマの激しい誘致合戦を見ればよくわかります。当市も先人が残した誇るべき黒石の歴史文化があります。受け継いだ私どもは、さらに見直し、充実・発展させ、文化都市黒石を宣言して、子や孫、次の世代へ引き渡す責任があると強く思うのであります。

では、浅瀬石城は一体どんなお城であったのか。文献によると、戦国の世の中の慶長2年、1597年の落城までの約360年間にわたり、浅瀬石城を中心に繁栄を続け山城としての典型的な特徴を備え、本丸跡は津軽平野を眼下に、岩木山の高峰を真面目に仰ぎ、眺望絶景の高台にあったとされております。市教育委員会が平成12年3月に発行した「黒石地方の城館」の中に、浅瀬石城の内容が掲載されており、本丸、二の丸、侍屋敷、町屋敷、代官所などで構成されており、詳しくは調査が行われていないのでわかりませんが「くろいしまるごと博物館研究会」も、史跡文化財めぐり視察の折、岩木山の眺めはまことに素晴らしく、とコメント。戦いに備え築城した理由も実感できたと話しております。

私も各地の史跡を視察しましたが、浅瀬石城跡のような風光明媚なところはそんなになかったような気がいたします。また、ことしも第2回「本場津軽民謡全国大会」が開催され、全国各地より子供から大人まで多数出場大好評でありました。「じょんから節」発祥の地として、地元浅瀬石地区「じょんからふる里づくり推進協議会」が毎年「浅瀬石城歴史講座」を開催、市教育委員会、三上英治歴史文化専門員を講師に迎え、歴史・文化の勉強会を開いていると聞きます。黒石には、誇れる観光資源としての貴重な文化財があり、古きよき町並みのこみせ、沢成園、よされ、黒石ねぶたなど、大げさに言うと小さな世界文化遺産が多くあり、それらをより生かすため、また、黒石活性化のためにも、現在財政立て直し中の厳しい中、平成27年度黒字化の暁には、文化会館再開はもちろんであります。浅瀬石城史跡公園化構想も土俵の上

へ上げていただき、調査など一歩前進させるべきと考えますが、そこでお聞きします。理事者側の思いと、今まで進展がなかった経緯・理由などお聞かせください。

以上、実りある答弁を期待し、壇上からの一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長(中田博文) 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長(鳴海広道) 自民・公明クラブ今井敬議員に、私からは浅瀬石城についてお答えをしたいと思います。

議員御案内のように、仁治元年、正式には1240年、千徳行重が築城した浅瀬石城は、千徳政氏の時代に領地が拡大され、まさに文化的にも最も隆盛をきわめた城でした。しかし、慶長2年1597年に憎き大浦為信によって滅ぼされました。現在は、個人所有の民有地となっております。

また、浅瀬石城が落城したときには、領民使役の人々がその無念さや以前を懐かしむ思いが口説節として継承されてきました。それが、「じょんから節」であります。そのことから、浅瀬石が「津軽じょんから節」の発祥の地と言われるようになり、全国からも来訪者が多くなっております。

浅瀬石城のこれまでの調査では、現地の立ち入り調査や、文献資料の収集などを行っていますが、浅瀬石城は、本丸、侍屋敷、町屋敷、二の丸、代官館、御堂館から成っております。歴史的に見て貴重な城址ですので、今後、史跡公園化がどうか、可能かどうか。難しいと思いますが、諦めることなく、引き続き調査を進めてまいりたいと考えております。以上であります。

降壇

◎議長(中田博文) 総務部長。

◎総務部長(成田耕作) 私からは小型家電リサイクル制度についてお答えいたします。

平成25年4月から施行された使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律、いわゆる使用済小型家電リサイクル法は、使用済小型家電機器等に含まれるアルミ、貴金属、レアメタルなどが、リサイクルされずに埋め立てられている状況から、廃棄物の適正な処理及び資源の有効な利用の確保を図ることが急務であるということで制定されたものでございます。

当市においては、施行前の今年3月1日から実証事業を含め、市内12カ所、各公民館等の資源物収集ステーションに回収ボックスを設置しのぼりを立てて事業を展開しております。

3月1日から3月25日までの期間実施した実証事業の結果は、リモコン等の使用済小型家電

が50個と多く、全部で149個、62.9キログラムを収集しております。

これまでも市の広報紙やチラシ等でPRして来ましたが、さらなる制度の普及を図ってまいりたいと考えております。

さらに、御質問の国の補助制度的なものでございますけれども、回収ボックスや市民用の周知チラシ、PR用ののぼりなどが再資源化を促進するために現物で支給されております。また、費用負担についてでございますけれども、市町村の責務は、回収し分別収集して、中間処理業者へ引き渡すということでございます。そのため、費用負担は発生しません。以上でございます。

◎議長（中田博文） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からは、高齢者見守り宅配事業についてお答えいたします。

まず、20年後の市の高齢者世帯、ひとり暮らしの世帯の見込みということでございますけれども、本年3月、国立社会保障人口問題研究所が2035年の全国市町村の人口の推計値を公表しております。それによりますと、黒石市は現在3万6,000人ちょっとですけども、それが2万4,666人と。1万1,300人ほど減少するというふうに推計されております。そのうち高齢者人口ですけれども、2035年は9,666人と。現在の高齢者人口が9,479人なので、人口全体としては1万人以上減るんですが高齢者は200人ぐらいふえるというふうな推計をされております。世帯数については、推計は出ておりませんが現在大体八百六、七十世帯が高齢者世帯、単身の高齢者の世帯なので、それと余り変わらないか、若干多くなるぐらいだろうというふうに推計されます。

次に見守り宅配便事業について、そのサービス内容ということですが、市内に住んでいる65歳以上の単身高齢者全員に1カ月に1回、市からの刊行物等を宅配するもので、手渡しすることを前提としております。で、直接安否を確認するというものですが、4月、5月の実績ですけれども、大体世帯数が八百五、六十世帯です。4月、5月。世帯ちょっと変わりますけれども。手渡しできたものが大体800世帯ちょいぐらい。それから、持ち帰り、不在という形ではなくてはいるかいらないか不明というような形でお持ち帰り、市役所のほうへ来る、帰ってきたのが4月が4件、2月が5件です。あとは3回ほど伺ってますので、行ったときに不審ではないと、住んでいるというところについては、投函してきたものが五、六十件あります。その、不在ではなくてはいるかいらないかわからないというようなものについては、後日民生委員にお願いをして直接安否を確認して、その5件、4件とも安否は確認できております。

次に、刊行物の内容と予算ということでしたけれども、刊行物については、高齢者向けの健康、安全、消費者情報、例えば悪徳商法のやつとかそういうものを準備しております。4月には高齢者福祉事業の概要を送りました。5月については生活安全読本を宅配しております。今

後、熱中症とか、インフルエンザ予防のパンフレットなどを配付する予定でございます。予算としては、宅配の委託料が194万円、あと刊行物の購入とか印刷費で28万円、合計222万円となっております。

ヤマト運輸と契約した経緯ということでございますけれども、ほかの事業、買い物支援とかそういうものの事業をヤマトのほうで他の市町村で、他県でね、やってるんですけども、そういうものを黒石もやりませんかという話でお話があって、買い物支援については高齢者のほうの希望をとったところ、それほど数が多くないということで、逆にこちらのほうから宅配便で安否確認できないかという持ちかけをしたら、ヤマト運輸でも全国で初めての取り組みということで、本社の企画部もうちのほうに一緒に来て中身を詰めて、やろうということになりました。で、契約をしております。この事業そのものは、先ほども今井議員言いましたように共同通信から配信されて、全国からヤマト運輸の方に200以上の市町村から問い合わせが行ってるそうでございます。先日、黒石にも秋田県湯沢市がこの件で視察をしたいということで、視察に来ております。

あとは、「高齢者見守り宅配便事業」のほかの見守り事業ということですが、訪問給食、軽度生活援助、高齢者世帯の道路までの除排雪事業、緊急通報装置及び人感センサーで24時間見守る「一人暮らし高齢者見守り事業」等があります。ただ、見守りの一番の原点というのは地域コミュニティーで、近所の人がやっぱり見守るのが一番の原則、一番確実な方法なので、それを今までと同様市としては各町内とかその辺と連携をとってやっていきたいと。この宅配便事業については、そのコミュニティーでやった補足、補填ていうんですかね、そういうフォローという形で実施しているということですが、それでも最低限月に1回は全員の安否を行政で確認するという事なので、画期的な事業じゃないかなというふうに考えております。

あとは、民生委員の状況ですが、民生委員については82名ですか今いて、各地区に配置されております。民生委員とそれからほのぼの交流員という安否確認をしていただく方たちとともに月一、二回ほど高齢者宅を訪問して、民生委員は高齢者だけではなくてほかのもの全部見てもらうんですけども、活躍をさせていただいております。以上でございます。

(「議事進行について」と呼ぶ者あり)

◎議長(中田博文) 6番佐々木隆議員。

◎6番(佐々木隆) 先ほど市長の答弁の中で、浅瀬石城のところでちょっと答弁について疑問点がありますので、ちょっと暫時休憩をお願いしたいと思います。

◎議長(中田博文) 疑問点の箇所を述べていただきたいと思いますけども。6番。

◎6番(佐々木隆) 憎き津軽為信というような表現がされておりましたので、これが果たして

よいものかそれをちょっと疑問なので、暫時休憩したいと思います。

◎議長（中田博文） 市長の答弁の意図とするものは、千徳城の立場に立った形で相手方、攻めて来たほうの者に対しての憎きですから、という認識だと私は思いますので疑問があるというその発言に対しては、私は受け入れる気持ちはありません。

◎議長（中田博文） 12番。

◎12番（山田鉦一） それわかるんだけども、要するに市長としてそういうような言い方をしてよいのかという多分そうだと思うんだけども、やはり議場においてやぱりそういう発言はちょっとどんなものかな、ということだと思うんですけども、私はそういうふう感じたんですけども。

◎議長（中田博文） 市長。

◎市長（鳴海広道） そういう、議員から見て行き過ぎだということであれば、取り消してもいいわけですよ。その千徳城が落城したいきさつ。結婚式の夜に千徳城からお嫁さんをもってみんな楽しんでいるそのさなかに津軽為信に滅ぼされた。こういう歴史的な背景があるわけですから、つまり、だまし討ちであります。だまされたことが悪いのか、結婚式の夜にみんなお祝いしているときに夜襲をかけられて落城した。みんなこの歴史を知っている人は、誰もがそう思っています。特に浅瀬石の人は。私は浅瀬石ですから。いやそれが何が、どこでどう悪いのか、ちょっと言ってください。

◎議長（中田博文） 6番佐々木隆議員。

◎6番（佐々木隆） そうすればですね、普段、弘前の分家分家っているところじゃつべてますよね。市長さんでもさ。だから、そういう思い、黒石市の市長としてですよ、ね。弘前の分家の黒石市ですと。いろんなところで私は聞いてますよ。

◎議長（中田博文） 6番佐々木隆議員に物申しますけども、今市長の答弁しているのは時代が違います。弘前、津軽藩の分家というのはその後の時代の分家でありますので、ものが違うと思います。

（「へば、マスコミこれ書け」と呼ぶ者あり）

◎議長（中田博文） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（中田博文） 再質問を許します。4番今井敬議員。

◎4番（今井敬） いろいろ誠意ある答弁ありがとうございました。若干二、三提言と質問させていただきます。

まず第1番目の高齢者見守り宅配便事業についてでありますけれども、先ほど村元部長のほうから全国から問い合わせあるいは視察に来て、これはもう素晴らしい事業であると私も感激

しておりますけれども、どうでしょうもう一步ひとつ踏み込んでですね、これ私なりの考え述べさせていただきますけれども、今ひとり暮らしの高齢者の方々、お年寄りの方もそうですが、困ったこと、悩み事結構持っているわけです、私の経験上ですね。それで実際私のところへも二、三そういう悩み事が来ておりますけれども、ちょっと1例を申し上げます。例えば私の地区の追子野木、新ちとせ橋からちとせ橋のベニーマートの反対側の土手なんですけれども、土手の下ずっと畑あるいは花畑ございます。春に雪が解けてですね、楽しみにしててさあ畑へ出かけ野菜をつくらうあるいは花を植えようと、毎年10名ほどのお年寄りの方がそこへ行くわけです。大体二、三百メートル先なんですけれども、手押し車であるいは自転車で毎日せっせと生きがい、楽しみとしてやっとなるわけなんですけれども、ことしある近所の方が、もうことしやめたと。えっと、何ですかって聞いたんですが、去年の秋ですかことしの春先ですか、今までと違った大きな砂利をずっと土手ひいちゃったと。私も現場へ行って全部見てきましたですけれども、とても手押し車で歩けるような状態でないと。今、非常に八間道路が車の渋滞が激しくなって朝夕あの土手を追子野木へ抜けきる車がふえております。よって、非常にもう、すれ違うのもぎりぎり、もうお年寄りの方は見てられないぐらい危ないわけです。私も自転車で実際車とすれ違ったんですけど、私も土手へ落とされるような気分になりましたんですけど。それで、立派な川へおりの階段あります。とても私もそこをおりられなかったです。というのは、階段の上に砂利がもう何重にも積み重なってとても足をおろせない状態。そういったことで、以前、何年前ですか佐々木建設部長にお願いして、せめて住宅地まで舗装してくださいということで、あそこは県の管轄ですので県のほうへお願いして住宅地までは舗装していただきました。非常に地元の人でも喜んでおります。それから年月たってですね、社会の状況も変わってきております。できればこれからますます高齢者の方々がふえてまいりますので、できれば橋と橋との間舗装を何とか実現していただけないかなと。お年寄り、高齢者の方々の楽しみを決して奪ってはならないと思うんであります。

それともう1点。去年非常にお年寄りの方に喜ばれた温泉入浴券がございます。無料で市内の温泉へ入っていただこうと。ところが、市役所へ取りに出向かなければあならない。ところがひとり暮らしで市役所へ行けない方、欲しいけども行けないのであきらめたと、こういった話も聞いております。ですから今回宅配便やるわけですから、ぜひそういった温泉入浴券も宅配便に乗せてですね、届けると。そういった方法もいいんじゃないかと思います。それとひとり暮らし見守り、これは今後の非常に重要な課題だと思うんですけれども、ほかにも電気、ガス、水道検針員もおります。また郵便事業会社毎日郵便配達、新聞配達、牛乳販売店などもございます。よりよきめ細かに、網の目からもうごみが漏れない程度にお年寄りの方々を見守る必要があると思うわけで、ぜひできたら、例えばどここのお年寄りは誰がつき合いあって、

誰が見守っているのかという、高齢者見守りマップ、地図ですね、そういうものをつくったらよろしいんじゃないかという気がします。それによって適切な対応ができ、孤立死の防止につながるんでないかなと思います。医者も言っとります。病気になって12時間から24時間以内発見されると、救命率が非常に高いと。ところが埼玉やら何やらで孤立したニュースを見ますと、死後1カ月とか2カ月とか。こうなるともう手遅れなんであります。ですから黒石は決してそういうことがないようにひとつお願いいたします。

2番目として、小型家電リサイクルでございますけど、これはもう質問も何もありませんですけども、この事業はあくまで市民の協力なしではやっていかれません。ですので、市民の協力を仰ぐためにぜひ理解得られるような努力が、我々も当然必要です。行政側もひとつよろしく申し上げます。

それから3番目の浅瀬石城跡の史跡公園化。先ほど市長さんから強い答弁がありまして、市民クラブの方よりちょっと言い過ぎではないかと意見もありましたですけども。

私小学校3年のときに青森市から福井県美山町、今、福井市に合併になっております一乗谷のそばに転校いたしました。そこで小学校卒業するまで過ごしましたですけど、すぐそばに朝倉義景という遺跡がありまして、我々チャンバラするちょうどいい遊び場でありました。朝倉義景というと織田信長の家臣であります。織田信長の妹お市の方が浅井長政、滋賀県の浅井長政へお嫁に行き、そこで戦争が起こり、朝倉氏は浅井長政について見事に浅井・朝倉とも打ち取られ首はねられ落城いたしました。そういったことで、我々小さいころはもう全然気にもとめてなかったんですけど、昨年、クラス会ありまして呼ばれて福井まで行ったんですけども、余りの変わりように私びっくりしました。見事に復元されておりまして、私の小学校時代の同級生も、管理室のほうへ定年退職後勤めておりまして、いろいろ聞いたんですけども、初め平成7年にいろいろ復元始まりまして、平成19年に完成。で、23年度は50万人見学者あったそうです。ところが昨年は75万人の見学者にふえた。なぜかといいますと、去年テレビのソフトバンクのコマーシャルで一乗谷朝倉遺跡が流れたおかげでふえたという話してありました。また市内の、これも含めての市内の経済効果195億円。すぐ200億になるだろうと言われております。このように、何にもない本当行くとわかりますけれど、山と山とのずうっと奥まったこんなところでございますけれども、やはり、あそこに比べたら私は浅瀬石城の眺めのいいところ。インターにも近い、十和田湖にも近い、あるいは将来西十和田トンネルができるだろうなという期待しておりますけれども、そういうことを考えるとですね、市長さんが調査などをしてみたいという気持ち出してくれましたですけども、やっぱり将来の20年先30年先、黒石にはこういうお城があったんだというあれも天下に見せしめるべきではないかなあと、私なりに強く思います。で、隣の岐阜県も私ちょっと行って来たんですけども、あそこ

も大垣城初め織田家関係のお城が大きいことから小さいのから非常にたくさんあります。今現在、その大垣城中心にお城を巡るツアー、スタンプラリーなるものを行っておりまして、各お城を3カ所回れば幾ら、10カ所回れば幾らということで、景品やらいろいろつけてお客を呼んでと。そういったことで、いま何かこう見るとあちこちお城ブームなような気がします。まずそういうことも踏まえてですね、ないんじゃないんですから黒石にはあったんですからですね。やはり弘前城だけでなく、黒石も末裔までにわたるそういう歴史を全国に広めていただきたいなという提言をして終わります。

◎議長（中田博文） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 舗装については建設部長さんと何とかお話していただきたいと、うちのほうではちょっと何ともできないので。あと入浴券ですけれども、残念ながらことは廃止しておりますので申し訳ございません。あと郵便とか牛乳の話でしたけれども、昨年日本郵便それから黒石市内の牛乳販売店、新聞販売店、ガス会社とこれは高齢者だけではなくて全員、一般市民全部について異常な情報を、異常な状態だと、例えば新聞がたまっているとか、そういうときには市役所に通報していただくという協定を昨年結んでおります。実際一、二件通報があつてこちらのほうで出向いて行って、安否を確認してる例もございますけれども、その辺についてはもう昨年実際もう実施しております。それから、誰がどの人を見守っているかというようなお話ですけれども、余りまた個人のプライバシーに入るということもなんですけれども、災害時要援護者マップというのを一昨年導入しております。災害の時に援助が必要な方については、本人からの申し出で登録をします。登録するときには、その人誰が助けに行くかというものをつけてやっていますので、それらについてはゼンリンの地図にそのお宅と助けに行く方が誰が行くのかというのは登録されております。あと高齢者台帳についても緊急連絡先というものは一応つけてございます。以上でございます。

◎議長（中田博文） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 橋と橋の間の舗装につきましては、今井議員と現地を確認の上、関係機関と協議してまいりたいと思っております。以上でございます。

◎議長（中田博文） 以上で、4番今井敬議員の一般質問を終わります。

◎議長（中田博文） 次に、14番北山一衛議員の登壇を求めます。14番北山一衛議員。

登壇

◎14番（北山一衛） おはようございます。自民・公明クラブの北山一衛であります。

昨日、工藤和行議員の一般質問におきまして、平成24年度の決算見込みが明らかにされました。内容は、単年度収支では赤字。そして財政調整基金を取り崩してようやく見込みがついた

ということであります。その状況の中には、他会計への繰り出し、ぎりぎりの段階での頑張りがうかがえます。そして、豪雪による除雪費の増大。この問題に関しましては、その時点で財政調整基金が底をつくのではと危惧されましたが、これも市長初め陳情活動のたまものにより特別交付税が予想より上回ったということでもあり本当に市長の御努力に感謝を申し上げる次第でございます。そしてまた、市職員を初めとした給料カットを初めとしたさまざまな御努力に対しまして心から感謝を申し上げたいと思います。また、平成27年度に向けて、全会計黒字に向けて財源のない中、頑張りを期待するものであります。そしてまた、ただお金がないだけではなくその中で、やはり市内の産業の活性化策を探っていただきたいと思うところであります。

それでは通告に従いまして一般質問に入りたいと思います。

1点目の質問は、再生可能エネルギー等導入地方公共団体支援基金事業の取り組みについてであります。この事業は、グリーンニューディール基金制度を活用し、東北の被災地等非常時における避難住民の受け入れや地域への電力供給等を担う防災拠点に対する再生可能エネルギー等の導入を支援するために設けられた、100%補助金であり、県内全体で80億6,000万円の事業計画であり、事業期間は、平成23年度から27年度までの5年間であります。

市町村においては、防災拠点等への再生可能エネルギーの導入を進めていくこととし、当初取りまとめた計画では太陽光発電及び蓄電池等の導入を基本とし、あわせて屋内高所照明や街路灯・道路灯などを整備する計画であります。また、県内人口の半数以上を占める青森、八戸、弘前の3市の事業計画では、学校、公民館、庁舎、病院など災害時に復興・復旧を担う行政機関や、緊急時の医療体制の確保などに重点を置いた計画になっています。基金の運営主体となる県は、交付申請に向けて、平成24年1月に40市町村から事業要望を取りまとめました。本市における当初の事業要望をお知らせください。

また、県は基金全体約80億円の概ね7割程度を市町村枠として確保することとされていますが、本市には幾ら配分になる見込みかお知らせください。

一方、この事業は年度ごとに各市町村に対し要望調査を改めて実施し、外部委員会、青森県地球温暖化対策推進協議会によるチェック等を受け、その必要性及び妥当性を確認した上で、当該年度の事業費を配分することとしております。平成24年度は1億3,980万円余りの事業がなされ、平成25年度は19億4,675万円余りの事業計画であります。ある程度事業を実施した自治体はさらに事業費を獲得しようと、県に要望を提出するのではとの憶測が流れております。総額が決まっており、早く事業を行った自治体が当初配分以上の事業費を獲得したら他の自治体に影響がでます。平成27年度で事業が終わります。26年度までに事業計画の承認が必要であり、当初の見込み額を確保する観点から、早急に検討し要望を提出することが大切であると考えま

す。本市ではどのような事業を行おうとしているのか、あわせて今後の事業に向けてのスケジュールをお尋ねいたします。

2点目の質問は、仮称「西十和田トンネル」早期建設に向けての活動状況についてであります。国道102号平川市温川地内と小坂町滝ノ沢地内を結ぶ路線に、仮称「西十和田トンネル」を早期に建設することを願い、平成元年度に西十和田トンネル建設期成同盟会が設立されました。以後、期成同盟会による陳情・要望活動がなされておりますが、一向に建設に向けての動きが見えないことに残念に思うものであります。この間、十和田湖休屋と宇樽部を結ぶバイパスの開通、十和田市焼山と子ノ口を結ぶ第1期工区の奥入瀬バイパスの共用開始、第2期工区の青撫山バイパスは早ければ14年度にも着工しようとしております。この青撫山バイパスは平成12年度から調査設計に着手しました。西十和田トンネルにおいては、平成7年度から県単費による調査が行われており、先を越された思いであり残念であります。確かに青撫山バイパスは奥入瀬溪流のバイパスとして、がけ崩れ等の危険から交通を確保する面で非常に重要であります。一方、西十和田トンネルに関しては、冬季閉鎖による観光、物流面での弊害、現在通行している道路の傷み状況を鑑みれば、青撫山バイパス以上に早期の建設が必要であると考えられます。県・国は必要性を感じとっているのでしょうか、疑問を感じるものとして質問をいたします。

鳴海市長は、現在期成同盟会の会長をなされ、県に対し毎年要望活動をなされているとお聞きしますが、県の対応・返答についてお知らせください。また、木村前青森県知事時代にはこの計画に調査費をつけ、国への要望活動を行ったと聞いておりますが、現在の三村知事になってからは、国に対する重点要望から外されたと以前報道されたことがあり、現在、県から国への要望活動の状況と、あわせて市から国への要望活動の現状についてお尋ねいたします。

次に、「西十和田トンネル」早期建設に向けてのPR活動を活発に行ってはいかがでしょうか。例えば、期成同盟会の関係市町村に協力をいただき、街中に看板・のぼり等の設置、庁舎には大きな垂れ幕の設置など、また刊行物には「西十和田トンネル早期建設」といったワンフレーズを記載するなど、PR活動を展開してはいかがでしょうか。また、各種団体と連携し早期建設に向けた活動を展開してはいかがでしょうか。本市の所見をお尋ねいたします。

3点目の質問は、ふるさと納税の現状と今後の取り組みについてであります。ふるさと納税は、2008年4月に公布された「地方税法等の一部を改正する法律」により、個人住民税の寄附金制度が大幅に拡充され、個人住民税所得割のおおむね1割を上限として、所得税とあわせて控除される制度であります。また、地方間格差や過疎などによる税収の減少に悩む自治体に対しての格差是正を推進する構想として導入されたとも言われております。

本市においては、制度開始時に東京黒石会員に対し、制度を紹介したと聞いております。先

般、議長の代理として東京黒石会の総会に出席した折、来賓として出席されていたさほど本市とは縁のない方から、懇親会の場で、黒石を好きになった旨の発言があり、黒石に寄附をしたいとの申し出がありました。ここでちょっと余談にはなりますが、当時、黒石ナナ子議員の歌と営業活動も功を奏したのではないかと、一因とも考えております。大変ありがたいことであり、PR活動の重要性を感じたところでもあります。また、今回の質問の聞き取り時に、担当課から黒石を思い毎年寄附金を贈ってくれる善意ある方もいらっしゃるとお聞きし、この制度を活用した黒石への温かい思いを感じる場所でもあります。

ここで最初の質問であります。ふるさと納税制度開始来、寄附金額の推移はいかほどになっているかお尋ねいたします。また、PR活動を行っていらっしゃいましたらあわせてお知らせください。

次に、今後の取り組みについてお尋ねいたします。この制度は納税ではなく寄附であるため、一定以上の金額を寄附した場合に特典を設けている自治体もあります。一例として、特産品などの贈呈や、地域にちなんだ著作作品を贈呈しています。例として、県内むつ市では、1万5,000円の寄附に対し、海峡サーモン切り身セット、陸奥湾産ホタテ、イノシシ鍋セット、地酒セットのいずれかを贈呈しています。自治体によっては、1万円の寄附に対し、およそ3,000円から5,000円くらいの特産品、例えば、お米、肉、果物、海産物、お酒などをお礼として送っています。本市においても、お礼として、お米、りんご、地酒などの地元特産品を贈呈してはいかがでしょうか。また、寄附された方々にはお礼状を送っていると思いますが、あわせて観光大使の特典等いろいろありますが、それらと黒石を訪れた時に利用できる特典などを同封して送ったらいかがでしょうか。本市のPR、産業の振興、観光に結びつくものと考えます。ふるさと納税の寄附に対するお礼についての当市の所見をお尋ねいたします。

以上をもちまして壇上からの一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（中田博文） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（鳴海広道） 自民・公明クラブ北山一衛議員に、私からは再生可能エネルギー等導入支援基金事業の取り組みについて、3点お尋ねがありましたのでお答えをしたいと思います。

県に提出した当初の事業計画は、市内小・中学校の4施設と黒石市国民健康保険黒石病院の計5施設に、災害時の避難場所等や医療機能の電源確保を目的に、平成24年4月、太陽光発電と蓄電池導入の事業計画書を提出いたしました。

次に、当市の配分額は、県再生可能エネルギー等導入推進基金事業に係る配分目安額として2億円となっております。

現段階では、事業の十分な効果を得るため、当初計画を踏まえながら対象施設等の再整理をし、検証しているところであり、平成26年度以降の事業実施を目指しております。

今後のスケジュールですが、10月下旬、新年度の実施事業計画書を県に提出し、県において外部審査を経て、その後、国に申請され審査・承認、平成26年度事業実施できるものと考えております。以上であります。

降 壇

◎議長（中田博文） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） ふるさと納税の現状と今後の対策についてお答えいたします。

過去5年間のふるさと納税の対象となる寄附金の実績は、20年度11件292万2,700円、21年度16件108万2,270円、22年度15件116万5,000円、23年度9件44万円、24年度17件86万円、合計68件646万9,970円となっております。多くは、市の財政を憂えたり、図書館建設のためにという御厚志によるもので、中にはお一人で、多年にわたる御寄附を継続している方もおられます。このほか、法人・団体等からの寄附金は、過去5年間で、25件350万4,850円となっております。この場を借りて、改めまして皆様からの御厚情に心からお礼を申し上げます。

ふるさと納税制度については、市ホームページに掲載しているほか、寄附をなされた方に対して、ふるさと納税制度の御説明をさせていただいております。これまでは善意の寄附行為という捉え方から、積極的なふるさと納税制度のPRは行っておりませんでした。個人からの寄附への特典として市の特産品を贈呈するなど、市の活性化に活用する方策については、今後の検討課題とさせていただきます。以上です。

◎議長（中田博文） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは、仮称「西十和田トンネル」関係の御質問にお答えいたします。

2点ありますが、まず1点目、建設要望に係る現状ということで県の回答、それから国への要望はしているのかという関係ですが、仮称「西十和田トンネル」建設促進に関しましては、青森県市長会を初め、津軽南地方の重要課題に関する要望説明会、国道454号整備促進期成同盟会、西十和田トンネル建設期成同盟会などの機会を捉えながら県に対して要望活動を実施しております。また、秋田県に対しても同様に、西十和田トンネル建設期成同盟会として要望活動を継続しております。

県の県土整備部道路課の回答は、平成7年度から調査に着手し、これまで環境調査や関係機関との協議を進めてきているが、青森・秋田両県にまたがる長大なトンネルであり、国立公園内に位置していることから、環境省を初め関係機関との協議・調整等に時間を要すること。また、高度の技術と莫大な事業費を要するなど多くの課題があることから、今後はこれまで実施

してきた調査の結果を整理し、これらの課題への対応について検討するというものであります。

次に、国への要望活動につきましては、市では直接国に対しての要望は行っておりませんが、西十和田トンネル建設期成同盟会では、平成4年度まで国に対してトンネル建設の前提となる大鱒・十和田湖間国道昇格の要望活動とあわせて、西十和田トンネル建設促進の要望活動を行ってまいりました。なお、県に確認したところ、県では国への要望は行っていないとの回答でありました。

それから、2点目のですね建設促進に向けてのPR活動に関しての御質問にお答えいたします。PR活動であります。まず看板につきましては、温湯地区に「西十和田トンネル早期着工」という看板を設置し、PR活動に努めております。また、西十和田トンネルは国道454号の一部にもなるため、国道454号整備促進協議会でも要望項目の一つとして要望を継続している上、今年度は国道454号整備促進期成同盟会の要望書に当市の市民の声を添付してもらうよう八戸市の事務局へ働きかけております。

一方、民間の活動といたしまして、黒石商工会議所では昭和61年度以降の事業計画に、西十和田トンネルの早期実現を重点事業目標として設定するとともに、知事との懇談会で要望を続けてまいります。

議員御提案のさまざまな手法を活用した活発なPR活動の実施と、官民による推進活動の取り組みにつきましては、期成同盟会の中で関係市町村と協議してまいりたいと考えております。

それから1点付け加えさせていただきますが、議員、先ほど御質問の中で西十和田トンネル建設期成同盟会の組織された時期のことですが、平成元年とおっしゃいましたけれども、元年度であれば大丈夫です。平成2年の1月9日ですので、確認までということ。以上でございます。

◎議長（中田博文） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（中田博文） 再質問を許します。14番北山一衛議員。

◎14番（北山一衛） 1点目の再生可能エネルギー等の支援基金事業につきましては説明ございましたけれども、まだ今計画を練ってる最中だということでありまして、10月に提出されるということでもあります。先ほどもおっしゃいましたけれども、やはり今ある程度大きな市は事業を先行してやっております。そして事業費をもっと獲得しようと動いているとも聞かれておりますので、何とか黒石も急いで早く計画を練って、事業を行ってほしいと、そして最初の当初計画では今説明になかったんですけども、公民館等という説明がなかったんですけども、公民館に対してはどう考えているのでしょうか。公民館等ですね太陽光発電等ですね。あとですね、一応病院はいいんですけども、その内容、どういようなことをやろうとしているのか。

私の要望ですけれども、やはり今街路灯とか蓄電型の街路灯、太陽光発電で、あれを病院の駐車場のあたりにつけるとかするのはいかがででしょうか。そして、庁舎、黒石のこの市役所の庁舎に関しては一切何も回答がなかったということでもありますけれども、この黒石に対して2年前の大震災のことを考えますと、あの停電になりますとこの市民がたよりといたします庁舎がパニックの状態に陥ると、その対処策も何か考えたほうがよろしいのではないのでしょうか。その点の考え方、当市の所見をお聞きしたいと思います。

2点目の仮称「西十和田トンネル」の建設促進に向けての活動状況についてでありますけれども、県の回答は莫大な予算がかかると、そして、要するに国定公園の中で環境調査等もかかるということでもありますけれども、先ほどおっしゃいました青撫山バイパスに関しましては、あの事業がですね、この今のトンネルの事業と大体似ているわけでありまして、あれが大体全体で4.6キロぐらいですかね、の大半がトンネルだと。こっちの西十和田トンネルの構想は、大体全体6キロ。そのうち3.4キロがトンネルだと。青撫山は、大体全部で230億、おおむね、概算でかかると言われておりますけれども、こっちを、もしそうしたとしても、大体そのぐらいでおさまるのではないかと思いますけれども、県はやはりその理由として多分お金がないと思うんですよ。そっちに今お金を振り向けないといけないということもありまして、多分こっちの今の西十和田トンネルに関しましてはその後に行なえばよいと考えているのではないかと、私個人的には推察しますけれども、その点も考えながらやはりぜひともその後にもいいですから、何とかこの西十和田トンネルをつくってくださいと、強力をお願いをさせていただきたいと思っております。どうぞその辺市長初め何とかよろしくお願ひしたいと思います。強力にPR活動を、所見をお伺ひしたいと思います。

3点目でありますけれども、ふるさと納税に関しましては、先ほど説明がございまして、寄附金のふるさと納税寄附金に対します金額をお知らせいただきました。これはやはりこの黒石に対する真の、本当に黒石を思うための寄附金であると思っております。そしてまた、本当にありがたいことでありまして、これがこの金額が黒石に対する思い。そしてまた私は、言いたいのはやはりこれとは別にやっぱり黒石をもうちょっとPRするために、どんどんと黒石の物産を送る等を行って、黒石の産業の活性化、振興、そしてPR等に結び付けてもらいたいという観点からのお願いでありましたので、ぜひ、なるべく前向きに検討を願ひしたいと思います。大体ほかの市町村を見てますと、1万円の寄附に対して先ほど3,000円から5,000円と言いましたけれども、そんなに送る必要はないと思っておりますけれども、せいぜい2,000円程度ぐらいでいいのではないかと。お米2,000円程度でしたら、5キロから10キロぐらい送るとか、そして季節によっては、りんごを送るとかすれば、それもりんごもいいのでなくていいと思う、家庭向けのりんごで十分でありますので、そういうようなことをやってこれが黒石の実情ですよということを訴えていけば、

もらった方々もうれしく思うと思うんですけども、その辺をなるべく行ってもらいたい。そしてまた、東京黒石会に行ったときに、ある方からこのお話を聞いたわけでありまして、ふるさと納税に寄附金やるといろんなものもらえるんですよと、そういう特典があるんですよということもお聞きしました。また、東京の黒石会の会員の方も以前はやはり黒石の物産を欲しがっているということも一時お聞きしたことがあります。やはりこの制度を利用してですねそういう黒石会の人たちが寄附してくれたらまたそれを送ってやるということをするれば、またそれが輪が広がっていくのではないかと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。所見がございましたらお願ひしたいと思います。以上です。

◎議長（中田博文） 市長。

◎市長（鳴海広道） 北山議員から西十和田トンネルに対する考え、情熱、ぜひやってもらいたい。私も今まであらゆる機会を通していろんな方にそのことは強く訴えてまいりました。でも議員御案内のように、ここ二、三年は国全体が公共事業を抑えるという、そういう方針でした。いい、悪いはわからない、別ですよこれは、そういう考えでした。それからもう一つ、あすこで大きなネックになっているのは、環境アセスです。これもまた、今の時代から行くと優先される。そして、やらない理由として環境アセス云々。このことが国の定番でありました。やらない定番でありました。でも私はそれでいいと思いません。ぜひこれは、何も黒石だけではなくて、青森県全体の問題だと思います。あえて、ひいて言うならば、東北の一つの課題だと言ってもいいのではないのか。そうするとやっぱりこれまで以上に国に、いろんな関係機関に西十和田トンネル早期着工、これを呼びかけていかなければならないと思います。頑張りましょう。

◎議長（中田博文） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 再生可能エネルギー支援基金について再質問お答えしたいと思います。

まず、黒石市に配分されている2億円は目減りしないということを県から言われておりますので、それは大丈夫でございます。それからですね、早めに計画ということでございますけれども、それも含めてですけども、環境省のほうでは安いものもだんだん出てきているということで、余り拙速に事業進める必要もないのではないのかということも言われております。しかし、27年度までですので、公民館も言われましたけれども、そういうのも含めて再度精査してまいりたいと、そのように考えております。それから調査に関しては、耐震上の問題もあるということ、それからパネルを設置するスペースも非常にとる、相当使用しますのでそれも非常に難しいということ。病院につきましては、街灯と言われましたけれども、現在オーダリングシステムやってみて、それで補助をもらってそれから停電になったときにすべて賄うというシステムで、病院は該当にならないということをおっしゃってございまして、そこは御了

解願いたいと、そのように思います。

それからふるさと納税でございますけれども、PRはホームページで現在も出しておりますし、ただですね、財政を憂慮してふるさと納税していただいているという方ですね、また市民の税金を使ってですね、またお土産をあげるとするのは、黒石、ということでそれらも含めて検討してまいりたいと、そのように思っております。以上でございます。

◎議長（中田博文） 以上で、14番北山一衛議員の一般質問を終わります。

◎議長（中田博文） 次に、5番工藤禎子議員の登壇を求めます。5番工藤禎子議員。

登壇

◎5番（工藤禎子） 日本共産党の工藤禎子でございます。通告に沿って質問いたします。

第1は、雪害対策園地再生の取り組みについてお伺いいたします。2年連続の豪雪は農家に甚大な被害を及ぼしました。先般の5月2日、県りんご協会定期総会に参加する機会がありました。開会宣言と同時に「生産者大会」を開催してほしいと緊急動議が出され、すぐ総会の前段に「生産者大会」へと切りかわりました。8人の農業者が次々と発言し、その中に黒石の方もおられました。出された内容の一部を紹介しますと、「除雪、融雪剤の散布、枝折れの手当てなど体力も限界だ」、「経費はかかり、収入が減るのは確実だ」、「被害の大小を見て、一律でない手当てにしてほしい」、「地盤のゆるみで崖崩れもおきており、災害に強い園地づくりが必要」、「りんごを守る体制をしっかりとつくってほしい」、「小玉傾向にあり、品質アップの対策が必要。これからは、こだわりりんご、おいしいりんごづくりの指導を強めてほしい」などの意見がありました。農家の皆さんの声と、りんご農家を回った中で出された要望に基づき、幾つかお聞きいたします。

1つは、農家の皆さんは早い除雪をして道路を確保してくださったことに感謝をしていましたが、舗装されていない道路のため、ロータリー車が入れず、枝の雪おろしがおくれてしまった。道路の整備と園地へのアクセスを確保してほしい。

2つ目は、融雪剤の助成ですが、融雪剤にも何種類かあって、中までしみて解かすもの、表面を解かす物など、農家の皆さんは組み合わせて使っているため、被害の大小を見て、一律でない手当てをしてほしいという声があります。

3つ目は、今回の被害は、丸葉園に多く、剪定方法でもかなり違ってくる。山手は短い剪定のほうがいいようです。これからは変えていかないといけないと言っていました。指導をお願いしたいという声がありましたので関係機関への働きかけをお願いしたいと思います。

4点目は、被害があった時の補償ですが、どんな災害でも安心というのが「総合一般方式」です。加入すればいいのですが、なにせ掛金が高いため、ほとんどのりんご農家は入っていま

せん。もっと加入しやすい掛金の見直しや、国・県への支援を要望すべきではないかと考えますのでお聞きいたします。

質問の第2は、子育て・保育についてお聞きいたします。

まず第1点、子供・子育て支援新制度についてですが、政府は2015年4月から、関連3法による、子供・子育て支援新制度の本格実施を目指しています。そして、新制度の実施主体である市町村は、国の方針を踏まえ、2014年の10月から認定手続きなど、新制度の具体的作業に入るよう求めています。国のスケジュールに従えば、市町村は来年の夏までに新制度にかかわるさまざまな基準や保育料などを条例で定め、住民に周知しなければなりません。ところが肝心の新制度の詳細は、内閣府に設置された「子ども・子育て会議」でこれから検討するのです。制度の全体像も示されていないのに、わずか1年で、本当に子供のためになる制度の準備ができるのでしょうか。国の発足により、自治体の設置が努力義務とされている「子ども・子育て会議」は自治体によっては、6月議会に上程されていますが、本市はどのように考えているのかお聞きいたします。

また、新制度では、補助金の対象となる施設等の種類がふえます。保育所は市町村が保育を実施し、それ以外は利用者と施設が直接契約します。公立幼稚園が1カ所あります。入園数は23年49人、24年38人、25年は28人と毎年10人ほど減少しています。新制度が2年後からスタートすることを考えれば、存続の希望も強いことから、黒石幼稚園のあり方をどのように考えているのかお尋ねいたします。

第2点は、保育環境の改善についてですが、1点目は、耐震化の必要性のある保育所はあるのか。あるとすれば何カ所で今後の対応はどのようになっているのかお聞きいたします。

2点目は、ひとり親家庭の児童扶養手当の削減が行われますが、今年10月から0.7%、来年4月から0.7%、2015年から0.3%、それぞれ3年間減らされます。もちろん、児童手当は保育園児の親だけではありませんが、貧困率の高い母子世帯にとっては、収入減は深刻な問題ですので、どのような影響があるのかお知らせください。そのほかにも新制度は施設基準や保育条件に格差が生まれてくること。また、入所申請前に保育の必要性・必要量の認定を受けることや保育時間が短くされることなど、具体的にまだ見えていない問題もありますので、また取り上げていきたいと思いますが、新制度の中で、黒石市の幼児教育や幼児施設をどうしていくのが問われてくると思います。

質問の第3は、3ワクチンと風疹予防対策についてお伺いします。

子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌ワクチンは、暫定的措置から原則無料という定期接種化することとなりました。ただし、子宮頸がんワクチンの接種は、接種後に長期にわたる痛みやけいれんなどを訴える人が相次いでいる問題で厚生労働省は14日、子宮頸がんワクチンの積極

的な接種を勧めることを一時控えることを決めました。各自治体に対して積極的な勧めを控えるよう求める文書が届いていますが、定期接種からは外さないため、希望者は受けられます。定期接種化する方針ですが、どのような対応を考えているのかお知らせください。

2つ目は、この財源は国庫補助事業を廃止して、一般財源化するとし、その財源は年少扶養控除廃止等による地方増収分を充てるとしてしています。しかし、一般財源化されれば、市町村の負担が重くなり、事業の後退にもつながりかねません。市としても、公費助成の継続はもちろんのこと、接種者をきちんとふやしていく取り組みはどのように考えているのかお聞かせ願います。

3つ目は、風疹予防対策についてお尋ねいたします。風疹の流行による予防接種者の急増で、夏以降にワクチンが一時的に不足するおそれがあるとし、厚労省は14日県を通して市町村にも通知しました。検査で抗体が不十分だった妊娠希望者や妊婦が近くにいる男性らが優先して接種できるようにとするものです。

そこでお聞きします。黒石でも公費助成をするのか。これは公明党の議員さんにも答弁しておりますが、また改めてお聞きいたします。

1つ、黒石で公費助成するのかどうか。

2つ目、やるとすればいつからか。

3つ目、対象をどのように考えているのかお答え願います。

質問の最後は、男女共同参画の取り組みについてお聞きいたします。

日本政府が「女子差別撤廃条約」を批准してから27年、「男女共同参画基本法」を制定して13年になります。昨年10月、世界経済フォーラムの男女平等度が発表され、日本は、135カ国中101位と前年の98位から後退し、主要8カ国では最下位です。発達した資本主義国の中でも最低の位置であり、そこから脱却できない現実があります。現在日本は、女性労働者の2人に1人以上が非正規雇用であり、賃金は非正規を含めると男性の53%、一人目の子の妊娠出産で7割が退職し、30歳代の女性の就業率は64%にまで落ち込んでいます。つまり、日本の働く女性の6割が出産などで仕事をやめ、その半数が非正規雇用となっているのは他の先進国では見られない特徴です。男女雇用機会均等法の改定も一定度進んできましたが、同時に労働基準法の改悪や、労働者派遣法などで男女雇用機会均等法は骨抜きにされ、逆に、正規の女性社員が「派遣」や「期限つき雇用」に置きかえられて差別が拡大していると言えます。

また、女性の登用率は前進しているものの、DVやセクハラは減っていませんし、パワーハラはふえる一方です。職場の上司などから受けるいじめや嫌がらせを指す、パワーハラスメントはもちろん女性だけではなく、働く環境に人権侵害が広がっています。

さて、黒石においても、国の基本法で義務づけられた男女共同参画プランは平成14年から始

まり、現在平成24年から30年までの第2次プランで取り組みがさらに進められていると思います。

質問の第1は、計画の柱である6つの基本目標などに第1次プランから現在までの取り組みも含めて、到達をお知らせ願いたいと思います。

2つ目は、男女共同参画の理解が広がり、意識が高まり、取り組みが目に見えて感じられるというような実感は余りないのですが、どのように分析評価しているのかお知らせください。

3つ目は、もっと促進させるために、男女共同参画条例を制定し、活動の拠点となる、男女共同参画センターなどの施設整備を考えるべきと思いますがお聞きいたします。

以上が通告した質問ですが、今議会で一般質問回数は100回という節目を迎えました。26年間の議会ごとの質疑・討論回数合計も1,000回を超えています。これからも市民の声を市政に反映させるため、また、市長その他の執行機関と議会という二元代表制のもと、監視及び政策提言など積極的に行なっていく決意を述べ、壇上からの一般質問を終わります。

(拍手)

降壇

◎議長（中田博文） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（鳴海広道） 日本共産党、工藤禎子議員に私からは雪害対策園地再生の取り組みについてお答えを申し上げます。

黒石市における融雪剤購入の助成内容は、10アール当たり400円を上限とする購入費の3分の1を助成しており、中南地域県民局管内の市町村は同様の内容となっております。

また、個々の状況に応じた対応には、個々の樹園地の状況を把握する必要があり、難しいものと考えております。

次に、普通樹は収穫のために枝を横に伸ばす栽培方法であり、枝も太いことから雪害に弱く、昨年の豪雪で少なからず被害を受けた樹木が、今年の豪雪で被害が拡大したものと考えられます。

今後も、豪雪による雪害が考えられることから、普通樹における収穫量を確保し、雪害を軽減する剪定方法について、青森県産業技術センターりんご研究所や青森県りんご協会等関係機関と連携して対応してまいりたいと考えます。

降壇

◎議長（中田博文） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは、男女共同参画の関係についてお答えいたします。

大きく3点ございますが、まず1点目の新しい第2次推進プランの基本目標ごとの取り組み、第1次からということもございましたが、大分以前からのことも含めますと長くなりますので、

少し以前のことははしよる形になりますが、お答えいたします。

基本目標1の家庭、地域における男女共同参画社会の実現につきましては、毎年開催している未来塾「女・男・輝かせて」を各地区公民館で開催することで、地区住民の意識啓発を図ってきました。参加者は増加傾向にありまして、平成23年度は1回当りの参加者が約21人だったのに対し、平成24年度は約25人となっております。

次に、基本目標2の働く場における男女平等の実現につきましては、市内では育児休業・介護休暇制度は、法律に沿って整備され、充実している上、制度利用希望者は全員利用してございます。また、民間企業等に対しては、広報等に関連記事を掲載し啓発を図っております。

基本目標3の政策・方針決定過程への女性の参画促進につきましては、毎年女性登用率を調査してございます。平成25年4月現在の、市の一般行政職の課長級以上、これは市長部局、教育委員会それから黒石病院の事務局それを含めた範囲での一般行政職の課長級以上への女性登用率は10.3%、そして各種審議会等の委員への女性登用率は、26.8%といずれも増加傾向にあります。各種審議会等につきましては、平成15年は17.4%でございました。なお、本市の女性登用率は県内の市町村の中でトップクラスにございます。そういう位置でございます。

基本目標4の男女の自立を支える地域福祉の充実につきましては、保育料の負担軽減や、高齢者に対する健康相談等の事業を実施しております。

基本目標5の男女の人権の尊重につきましては、家庭相談員に対する研修機会の整備を行い、また、妊産婦に対する健康管理と子育て支援も実施してございます。

次に、基本目標6の男女共同参画の意識づくりにつきましては、未来塾「女・男・輝かせて」を実施するとともに、意識啓発を図るための第2次推進プランのダイジェスト版を教育施設そして集会施設、銀行、スーパー等を指しますが、そういう集会施設等にも設置し、多くの市民の目に触れるようにしてございます。

次に、2点目の御質問ですが、活動の取り組みに高まりが感じられない。その分析・評価はどうしているのかということでございます。

市の事業等について、先程御説明したとおりですが、評価については、現在、第2次くろいし男女共同参画推進プランに沿って進捗状況調査の取りまとめを進めているところであり、7月開催予定の審議会に諮り公表する予定でございます。また、これまでの全体を通しての分析・評価となりますと、議員御存知のとおり、国・県及び市も、男女共同参画はまだ道半ばの状況であるという認識でございます。その原因としましては、社会全体の労働環境に多くの問題を抱えていることや、男女共同参画に対する男性の理解度が低いことなどが考えられますが、いずれにしても長期的に取り組むべき施策であると捉えております。

民間レベルでの取り組みとしまして、男女共同参画社会を進める黒石ハーモニーの会があげ

られますが、市民の意識調査やフォーラムの開催など懸命に活動を展開しておりますが、多くの課題を抱えているのが現状であります。

このようなことから、市では今年度から男女共同参画の中核となるリーダー層の拡大を図るため、新たな指導者を育成するための講座を開催するほか、第2次推進プランに新たに盛り込みました、男性の理解を深めることに力点を置いた展開など、他の先進的な事例も参考にしながら、関係団体・機関と連携協力して、活動の高まりを図ってまいりたいというふうに考えてございます。

3点目でございますが、条例等の整備そして参画センター等の整備が必要と考えるがということでございますが、県内の状況を見ますと、条例を制定しているのが八戸市だけでございます。施設につきましては、青森市、アピアの中にあるカダールという名称の施設ですね。それから弘前市の市民参画センターその2市だけが設置している状況でございます。条例の制定と施設の整備につきましては、県外の市町村の情報も収集し必要性を検討してまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

◎議長（中田博文） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からは子育て保育についてと、3ワクチンと風疹予防対策についてをお答えいたします。

まず、子育て保育についてですが、「子ども・子育て会議」については、現在、会議の構成メンバー等を検討しております。今後、9月議会に設置条例を提案し、10月中旬に組織を立ち上げる予定としております。

また、年内に実施される「子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」の結果を踏まえ、本市で必要とされる子育て支援事業や施策の実現に向け、「子ども・子育て会議」の意向を反映させながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

次に、市内保育所の耐震化についてでありますけれども、市内保育所15カ所のうち昭和56年以前に建築され、耐震診断の対象となった施設は4施設ございます。そのうち1カ所については耐震診断の結果、改修工事等の必要はなしというふうに認められました。もう1カ所は老朽化のため既に改築工事に着手し、本年8月に竣工予定となっております。あとの2カ所については、耐震診断があくまでも努力義務であり、費用負担も大きいことから、いまだ耐震診断が行われておりません。子供たちの安全対策に万全を期するためにも、耐震診断を行うよう市としても助言していきたいというふうに考えております。

次に、児童扶養手当の削減については、「国民年金法の一部を改正する法律」の施行に伴い、年金額等の水準について段階的に適正化を図る、減額するということですがけれども、所要の措置を講ずるとされたことから、「特例水準解消による児童扶養手当及び特別児童扶養手当の手

当額」について、本年10月から27年3月まで0.7%の減、額にして人それぞれですけれども月額70円から290円までの減額になります。平成27年4月以降については0.3%の減、額にして月額30円から120円の減となります。

次に、3ワクチンと風疹予防対策ですけれども、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチンが定期接種ということになりましたけれども、市としては保護者の理解を得るため、個別通知の際、保護者への説明文の添付や、乳児訪問のときにワクチン接種の必要性について説明し、指定医療機関以外でも接種可能なことなど、安心してワクチン接種が受けられる体制をとっております。

また、国庫補助事業から一般財源に移行したことによる、事業の後退はありません。さらに、ワクチン接種を推進していきたいというふうに考えておりますが、先ほど工藤議員からも言われましたが、子宮頸がんについては去る6月14日厚生労働省が副反応についての因果関係がはっきりしないということもあり、定期接種は続けるけれども積極的な勧奨はしないようにと、控えるようにというふうな通達がありましたのでそれに沿って実施していきたいというふうに考えております。

それから、風疹のワクチンの関係ですけれども、昨日市長から工藤俊広議員にお話がありましたが、対象としては19歳以上の妊娠を希望する女性、現在妊娠している女性の配偶者またはパートナーを対象として、ことしの8月1日から全額助成するというふうにしたいと、こういうふうに考えております。以上でございます。

◎議長（中田博文） 農林商工部長

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、雪害対策の園地再生の取り組みについてに関して、農道に関する舗装整備の御質問と、それから、りんご共済総合一般方式についてお答えいたします。

まず、農道の舗装整備についてでございますが、中山間地には、まず道幅が狭くすれ違いが困難な上、危険なカーブや急勾配な坂道が多く存在するなど未整備の農道が総延長で約24キロメートルございます。その整備には、幅の確保、雨水等の排水処理や安全施設など施工する必要があり、多額の費用が生じることから、現状ではすぐには困難であると考えております。

市では、津軽みらい農業協同組合、黒石地区共同防除連絡協議会や中山間集落協定代表者と連携をとりながら、これまでも説明会を開催するなど農道除雪に努めてきたところでございますが、昨年度、一昨年度については予想を超える豪雪でございましたので、剪定や園地管理のための道路確保が困難な状況にありました。今年度は、こうした取り組みも踏まえて、ほかのアクセスも考慮し効率的な農道除雪を行うため、早い時期に地元の団体等と協議・検討してまいりたいと考えております。

次に、りんご共済総合一般方式の加入状況等についてでございますが、黒石市における、りんご共済の過去3年間の全体の加入状況は、平成23年産が422戸、加入率で37.8%、平成24年産が436戸で加入率40.3%、平成25年産が440戸で加入率46.2%と微増しております。ただし、加入方式、黒石の実績では、9方式ございまして80%近くは暴風雨のみの加入となっております。議員御指摘の、雪と全ての災害に対応する総合一般方式への加入状況は、平成23年産から25年産まではわずか2戸にとどまっております。加入戸数が少ない要因としては、保険料の割高感があると思われまます。ちなみに、総合一般方式が、10アール当たり約8,400円、暴風雨のみで約3,600円、暴風雨にひょう害を加える2点方式が約5,300円、これに凍霜害を加えた3点方式は約6,200円となっております。

市では、りんご共済加入掛金の10%助成を平成22年度から継続しており、農業者の負担軽減と経営安定を図るため、引き続き加入促進に向けた周知に努めてまいります。

また、国・県への働きかけについては、きのう申しましたが5月30日に、弘前圏域8市町村長による県知事要望を行い、要望事項の内容の1つとしてこの共済にも触れておりまして、生産者が加入しやすく充実した補償となるよう補償水準の見直しを国に強く働きかけていただきたいとお願いしたところ、もう既に働きかけているとの回答を得ております。以上でございます。

◎議長（中田博文） 教育部長。

◎教育部長（奈良岡和保） 私からは、子育て保育についての新システムの対応を含めた今後の黒石市立黒石幼稚園のあり方についてお答えします。

黒石幼稚園は、就学前教育において公立幼稚園として重要な役割を担っておりますので、このたびの「子ども・子育て支援」新制度による幼保連携については、保育担当機関とも連携を図りながら対応してまいります。以上です。

◎議長（中田博文） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（中田博文） 昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時57分

午後 1時02分

◎議長（中田博文） 休憩前に引き続き会議を開きます。

再質問を許します。5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 雪害の問題ですけれども、実は舗装している広い道路も除雪が入らなかったと、何回も役所をお願いしたんですけども、だめだと。それは長坂のほうですけれども、そ

ういうのがありましたけれども、實際上どうだったのか、一生懸命やってはくださったのでね、喜んでいる農家もあるんですけれども、なかなか来なかったというところもあるので、比較的大きな幹線は早く除雪してくだされば、枝線の部分は自分達でもできるのでということの要望でした。先ほど、今年度は早い時期にという部長の答弁もありましたけれども、そういう苦情もありましたので、その点解決できるのかどうかも含めてもう1度お願いしたいと思います。

それから薬剤への助成なんですけれども、融雪剤なんですけど、やっぱり10アール当たり2袋ということなんですけれども、農家の人はわかるのかもしませんが、やはり4袋から5袋使うのが普通なんだそうです。それで地域によっては、やはり下にまで浸透しやすければ高くなって、1,000円前後にもなるということもあるので、200円であっても助成してもらっているのでもそれはありがたいんですけども、4袋くらいにのばせないかというような要望もありましたので、今後のためにね、これからのために検討して水準というか基準というか、というふうなことの要望もありましたのでお願いしておきます。

それから子育て保育のところなんですけれども、今現在「認定こども園」を希望しているとか、そういうふうにしたいという動きというのがあるのかどうかお願いします。この「認定こども園」も幼保連携型、幼稚園型、保育所型というふうないろいろと中身としても複雑というか、いろんな所管がちょっと違ったりね、国の。そういうのもあるので、もし動きがありましたらお知らせ願いたいと思います。

それと地域型保育っていうのは黒石の中であるのかどうか。例えば小規模保育、事業所内の保育だとか、あと家庭的に1人とか2人とかというふうになっている保育だとか、そういうものもあるかどうか、もしわかっていたらお知らせ願いたいと思います。

それからひとり親家庭の児童手当とか児扶手が削減されるなかで、金額そのものは小さいですけれども、それが年間、あるいは1年、2年、3年間というふうになると、そんなにどうでもいいとか大したことがないという金額でもないのでも、そういう点では、保育料の減免制度がうちのほうにないので、むつ市さんからちょっと取り寄せましたけれども、災害、疾病、負傷、失業による収入の減、その他福祉事務所長が特に必要と認めたときというような内容でありますので、普通災害等なども含めて、ほかの税ではあるので、これらも保育料の滞納者も多いことですので、いろいろと分析した上でこの減免制度も設ければいいのではないかなと思いますので、その点もお知らせ願いたいと思います。

それから風疹のワクチンなんですけれども、8月1日から無料接種を開始するということがありましたが、国の現状の予想では8月以降に一時的に不足が起こるおそれがあるというふうに国は予想しているわけなんです。それで8月1日から市がやろうとしたときに、十分対応できないということもあり得るので、確保といいますか、事前に持っておくというのが余りで

きないものですから、しかし、一定の確保は必要だと、医療機関等でですね、そういう対策もきちんと練っていただきたいなど。それから、抗体検査はやるのかどうか。抗体検査した上で、適応するというふうになるのかどうか、そこもお知らせ願いたいと思います。抗体検査やるとなるとそこでお金もかかるので、平川は本人が望めば抗体検査をいちいちしなくても、やったかどうかわからないという人もあるわけですから、皆さんの希望は検査をいちいちしないで適応するというふうにしていくんですけども、それなど、どのように考えているのかと。それから風疹も国からの助成が後からくるのじゃないかなと思うんですが、その可能性はどのように現時点で考えているのか。それから予算等も出てきますので、9月の補正とするのか、12月の補正とするのか、いずれにしても何人分ぐらいの予算を見るのかということがやっぱり必要だと思いますので、それもお願ひしたいと思います。

あと最後は男女参画なんですけれども、非常に女性の登用ということでは審議会等も含めて26.8%でしたか、県内でトップの位置にあるということでは、本当にうれしいことなんですけれども、さっき、評価とか分析と言いましたが、それがなかなか出てこないで、だからこの分各種審議会等に女性を多く登用しているために、こういうよさがあったとか、プラスがあったとかという女性の頑張りの部分がなかなか見えてこないで、その点をお聞きしたかったわけなんです。それでお願いしたいと思います。

それから、男性の男女参画の意識が低いのでそれを高める対策をとりたいと、これも非常にいいことで、今年度からこれも考えるみたいなんです、具体的にどんな形で男性の意識を高める取り組みを考えているのかお知らせ願いたいと思います。

それから施設なんですけど、男女参画のやはり数値としても進んでいるから余り県下も少ないということではなく、例えば公民館を、これから来年当たりから開けるか、その1室だとか、あるいは、空き店舗、商店街の空き店舗の1室と言いますか、それをやるだとか、そういうふうな形で気軽に男女参画の問題や相談、いろんな相談活動、悩んでいる人だとか、そういうことができるようなものをセンターということだけでつくることだけではなく、既存の施設を利用してやれるというふうにも思うんですけども、その点をお聞きいたします。

◎議長（中田博文） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） トップということではございません。トップクラスということではございますので。トップとなると1位ということになりますので。

評価・分析に関連して、女性の頑張りでですか。それはですね、これまで男女共同参画ということと女性の地位向上とか、女性の環境を、女性の働くそれから生活するさまざまな場です、不利な立場を改善していかなければならないと、それに相当中心が置かれてきたような感じを受けております。ただ、その時点でですね、逆に男女共同参画を正しく理解いただかなかった

部分も、特に男性に対してですねある意味では女性もそうかもしれません。あるのではないかというふうに思っております。ですので、例えばまだまだ女性の中でもですね、責任を持たせられるのは困るとか、前面に出るよりも従っているほうが楽だとかですね、いまいち意欲がどの辺にあるのかということも、一面では感じております。ですので、やはり女性に対しても、もちろん男性に力点を置いてということもありますが、双方に対してやはりもう一回正しく男女共同参画というものを、誤解・偏見とかなくですね進めていく必要があるだろうというふうに思っております。それから男性の意識の高まりの具体的にということでもありますけども、さまざまな方法をですねやはり研究する必要があるだろうと思います。で、民間でハーモニーの会だとかもう発足して10年近くなるわけですけれども、それから行政さまざま関係している機関とも情報交換しながら、また、広域でも組織ありますのでいろんな課題研究をしながら進めておりますけれども、県の支援もございまして。ただ黒石でじゃあどういうふうに具体的に進めていけば一番効果的なのかということをやはりしっかり議論した上でですね、情報収集もしながら、その上で進めていく必要があるだろうと。闇雲にとっかかかっていくということではなくてですね、ちゃんとしっかり分析しながら、着実に広げていけるようなことが必要だろうというふうに思っております。それから、活動できる場の設定ということですが、それに関しては今後さまざまな方の意見も聞きながら、検討してまいりたいというふうに考えてございまして。以上です。

◎議長（中田博文） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） まず、「認定こども園」を希望している施設があるかということですのでけれども、現状では「認定こども園」に移行したいという保育園はまだございませぬ。ただ、こちらで特に移行しますかという確認はしていないので、27年度に向けて一応確認をしていきたいというふうに思っております。

地域型保育をやっているところ、へき地保育をやっているところあるかということですが、黒石市の保育園そのものは定員オーバーしているところというのはほとんどない状況です。まあ小規模とかそういうところやっているところございませぬ。

保育料の減免制度ですけれど、保育料と他の社会保険、介護とか国保とか、多少制度的なもの考え方やっぱり違うと思います。あれは社会保険ですし、保育料は保育をやるための料金なので、保育しなければ自分で見ればいいということもあるんで、減免制度というのは一概に同等には論じられませぬけれども、災害等に関しては検討する余地はあるんじゃないかというふうに、これは個人的な考えですけれども、持っております。

風疹のワクチン接種の際に抗体検査をどうするのかということですのでけれども、抗体検査は実施しないで、希望者は全員やります。国の助成についてですが、今のところ国で助成するとい

う情報は入っておりません。昨日厚生労働大臣がインタビューに応じたものがテレビに入っておりましたが、現状の風疹の流行について国では特別な措置はとらないというふうな発言をしておりました。ただ、もっともっとふえてくればまた状況も変わると思いますので、今のところ助成はないものというふうに考えております。風疹ワクチンの予算何人分かということですが、19歳以上の女性で妊娠可能な方、現在妊娠している方の配偶者ということで、大体妊娠、母子手帳というのは年間160人ぐらいから180人ぐらい出るんですよ。それぐらいのたとえば旦那さんが全部来てもそれぐらいですし、19歳以上の女性でどれぐらい来るかというのはちょっと予想がつかないので、予算的には現在あるワクチンの接種料、全部のワクチンの接種料5,400万ほど予算ありますけれども、その中でとりあえず風疹の分を払っておいて、大体何か月かすると固まると思うので、9月か12月にその分を補正予算として要求したいというふうに考えております。ワクチンの確保ですけれども、国のほうで話はしていますけれども、大体任意接種、定期接種という子供たち以外の分が月に30万人を超すと、35万人になると若干8月ぐらいから不足するのではないかと。30万人ぐらいだと大体在庫が10万本ぐらいあるということなので、国のほう、県、私たちも医療機関のほうに必要な人から先にやってくださいよというふうな周知を図っていくので、8月初めのときに不足するかどうかというのは予想はつきませんが、その辺の推移を見ながら各医療機関に適正な確保をお願いしたいと考えております。以上でございます。

◎議長（中田博文） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） まず、農道の除雪の件でございますが、ちょっと今の御指摘の道路がちょっと特定できないので、ちょっと何とも申せませんが、幹線については2月と3月に、1回目は大体1週間から10日をかけて幹線は6地区で延長がですね36.5キロほどありますけれども、それを実施しております。で、議員御指摘の件はちょっと詳細についてちょっとどの件なのかちょっとここでは把握できませんけれども、基本的にはそういう一斉除雪に入った際には、順次やっていきますので急にここ、どこどこをやりたいと来られても多分できない場合もあります。特に3月に入ってから除雪については、建設課がロータリー車を保有していますので、建設課とタイヤアップしながら実施しているわけですが、それも今申したように順次進めている関係上、もちろん市街地除雪が最優先されますので、そちらのほうを優先した後に入っていくという形にどうしてもならざるを得ないので、そういう場合もあったかと思えます。基本的に幹線は見直しもしておりますので、どの道路かわかりませんが比較的広い道路で舗装されている道路であればちょっと調査してちょっと検討してみたいと思います。

次に、融雪剤の件でございますが、まずは10アール当たり2袋というのは、これはほぼ中

管内同一の取り扱いをしております。ただ、黒石の場合今年度大体1万6,000袋ほどをめどに予算化しましたが、実績としては1万3,200袋ぐらいになっております。ですから、こうした実績それから今後の中南管内の取り扱い、それから一番大きいのは降雪状況、こうしたことを踏まえながらまた今年も対応してまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（中田博文） 以上で、5番工藤禎子議員の一般質問を終わります。

◎議長（中田博文） 次に、7番後藤秀憲議員の登壇を求めます。7番後藤秀憲議員。

登壇

◎7番（後藤秀憲） こんにちは。黒石市民クラブの後藤秀憲です。

通告に従い順次質問させていただきますので、理事者の御答弁のほどをよろしく願いいたします。

初めに、伝建群と旧松の湯について質問いたします。

中町こみせ地区に関しては、黒石市歴史的景観保存条例に基づき黒石市中町伝統的建造物群保存地域の保存に関する計画を定めて保存することになっていると理解しています。近年、中町や旧松の湯に関しての研修会・シンポジウムなどが数多く開催されています。

私が知る範囲では、「歴史的街並み景観を生かした観光のありかたを考える」、「青森大学社会学部からの提案」、「松の湯の再生を考える」、「青森県建設士会南黒支部のレポート」、また、22年度には弘前大学教育学部に「旧松の湯基本計画策定業務」を委託しております。伝建群の保存計画などについて、平成20年度以降からでいいので、どのような事業が行われ、どのような提案・意見が出されたか、そしてそれらの意見などを今後どのように生かすかお知らせください。

また、平成22年度から委託料として伝建群保存事業、管理委託料など平成25年度の予算まで含めると1,700万円になりますが、委託先と事業の内容をお知らせください。

また、平成21年度から平成25年度予算までで、補助金として7,000万円の支出になりますが、補助した先と補助内容との合計金額をお知らせください。今回の補正で250万円を補正しておりますが、伝建群に関係するものがありましたら、その内容と今後どのような調査を予定しているかお知らせください。

黒石市歴史的景観保存条例の中に審議会が設置されておりますが、この審議会の役割と、今までどのように関与してきたかお知らせください。

次に、雪に強い地域づくりについて質問いたします。

黒石市は記録的な豪雪に見舞われ1月24日には累計積雪量が4メートル19センチメートルを記録し、豪雪対策本部を設置しております。連日の雪片づけで市民の疲れもピークに達し、自

宅付近には雪の捨て場もなくなり、道路も狭くなり、車の渋滞が各地で発生し、冬期間の降雪は市経済や市民生活に大きな影響を与えております。私は雪に強い地域づくりをしっかりと進めていくことが市にとって、極めて重要なことだと考えております。雪捨て場の少ない市において流・融雪溝は大きな効果を発揮しております。効率的な除排雪作業に努めるとともに、厳しい財政を踏まえつつも、流・融雪溝の整備を積極的に推進していく必要があると私は考えております。

そこでお聞きします。今までの流・融雪溝の整備状況と今後の整備計画をお知らせください。次に、農業問題、農業後継者や新規就農について質問いたします。

黒石市においては、2年続きの豪雪に見舞われ、りんご樹への甚大な被害、また、春先の低温による農作業の大幅なおくれがありました。その後、5月下旬の好天にも恵まれ、そのおくれも取り戻しつつある状況となり、同じ農業者として安堵しているところです。

さて、現在の農業経営においては、個人農家における子供が農業を継ぐことが当たり前でなくなり、今後ますます農業後継者不足や農業就業人口の減少が懸念されている状況の中で、農業後継者などの育成確保の目的から、昨年から実施された青年就農給付金制度が2年目を迎えました。

そこで、農業後継者や新規就農についてお尋ねいたします。

昨年から実施の青年就農給付金の24年度実績内容について、独立型と親元就農別に、また、対象となっている新規就農者の平均経営面積、そして、平成25年度新規の計画はどの程度見込んでいるかお知らせください。

次に、給付金受給は最長で5年間可能となっておりますが、給付金を受けた後はそれで終わりということではなく、その後も引き続き地域の担い手としての位置づけを確保するための支援もまた必要であると考えられます。市の考えをお知らせください。

最後に、農林業センサスによると、耕作放棄地が黒石市内においては約300ヘクタールほど存在します。非常に大きな面積であり、その農地の大半は中山間地で、容易に農地としては利用できない状況です。耕作放棄地を取得・借り入れして農地として再生する場合、国及び県の補助事業を活用することで、その解消に大きく貢献していますが、なかなか進んでいないのが現状であります。他県では、耕作放棄地となっている農地を、取得・借り入れし、規模拡大する場合には、新規就農者として認められた者に対し独自の助成金を交付しているなどの例があります。黒石市においても、今後もふえることが予想される耕作放棄地の解消を図るため、新規就農者であれば国・県の補助金に加え、さらに市が補助金の上乗せをするという考えはないのかお伺いします。

以上をもちまして、壇上からの一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（中田博文） 理事者の答弁を求めます。市長

登壇

◎市長（鳴海広道） 黒石市民クラブの後藤秀憲議員に私からは、黒石中町伝統的建造物群保存地区の保存計画についてお答えをしたいと思います。

伝統的建造物群保存地区内の整備が後藤議員御案内のように、徐々に進んできておりますが、その効果をさらに周辺市街地へ波及させ、また連動し、市街地全体の黒石らしさを創出し、活性化へ導くことが必要と考えております。

その中で本事業は、回遊性の高いまちづくりを行い、交流人口や滞在時間の増加を図ることを目的とし、国の委託金により調査を実施するものであり、全国35件の応募のうち、採択となった14件の中の1件となっております。

具体的には、歴史的な資源や地域のシンボルとなる施設などを生かした歩行者ネットワークや、伝統的建造物群保存地区に隣接する地区などのまち並みの再生、中心市街地の空き家・空き店舗の活用方策などの調査・検討であり、委託先については、これから十分な検討をしてみたいと思います。

なお、本調査をもとに、歴史的風致維持向上計画を策定し、国の認定を受けることにより、まちづくりへの各種補助制度を適用することが可能となりますので、制度の有効活用を図り、町の再生に取り組んでまいりたいと思っております。以上であります。

降壇

◎議長（中田博文） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、農業後継者や新規就農に関する御質問についてお答えいたします。

まず、平成24年度青年就農給付金事業実績と25年度の計画についてでございますが、平成24年度青年就農給付金事業には、経営開始計画書提出者27人に面談を実施し、「就農に対する今後の計画性」、「定着への意欲や発展性」などを考慮して最終的に25人、うち夫婦2組に平成25年1月と3月に給付しております。質問の中で、親元就農がこのうち10人、それから独立経営は15人でございます。また、平均経営面積であります。ちょっと今、手元で計算はしてございませんが、これらは大体2反歩から1町歩の経営面積となっております。給付の内訳といたしましては、個人申請21人に対して、150万円が19人、75万円2人が、夫婦申請2組には225万円の、合計3,450万円の給付となりました。

また、25年度計画につきましては、平成24年度から継続する個人20人、夫婦2組と青年就農給付金給付希望者2人を計画しております。

なお、平成25年度中に希望される方につきましては、6月末までの期間で募集を行っており、現在、要件を満たす8人の希望者がおりますので、青森県へ追加の予算要求をお願いしているところでございます。

また、この給付金が終了した後のお話でございますが、この面談している際にですね、当然「人・農地プラン」への登載、それから認定農業者への登録等をお願いしてございます。で、それらが認められていくと、いろんな国の補助、その他支援制度も受けられることになっていきますので、そういう形で対応してまいりたいと考えております。

次に、規模拡大加算等の話でございますが、まず国では経営所得安定対策加入者が、面的集約をするために利用権を6年間以上取得した農地の面積に応じて、その年度に10アール当たり2万円を交付しており、担い手育成対策にも有効と思われまますので、まずこの事業のPRに努めてまいりたいと考えております。

現時点で市の単独事業、あるいはこの規模拡大交付金の上乗せについては、今のところ考えておりません。以上でございます。

◎議長（中田博文） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは雪に強い地域づくりについてお答えします。

冬期間の歩行空間確保は、重要な課題の1つであることから、市が実施する機械除雪や流・融雪溝の整備とともに、ハンドガイド式除雪機械の貸与により、官民一体となった克雪への取り組みを推進しております。

平成24年度末現在の流・融雪溝の整備状況は、流雪溝が11.9キロメートル、融雪溝が17.2キロメートルの計29.1キロメートルであり、各地区の使用管理組合に管理運営の協力をいただいております。整備計画に位置づけられている路線のうち、未整備の5路線の延長3キロメートルについて、順次整備を進める計画です。今年度は、浦町二丁目から浜町会館、中郷小学校前を通る路線の延長0.7キロメートルについて、調査・設計を実施する予定であり、今後も安心・安全なまちづくりを進めてまいります。以上でございます。

◎議長（中田博文） 教育部長。

◎教育部長（奈良岡和保） 私からは、黒石市中町伝統的建造物群保存地区の保存計画についての、各種団体から提案された再生計画案の活用についてと、伝統的建造物群保存事業の委託先と事業内容についてお答えします。

まず、先ほど市長より歴史的風致維持向上推進等調査に関する答弁がありましたので、あわせてそのほかの保存計画についても答弁いたします。

まず、黒石市中町伝統的建造物群保存地区の中心的施設となる「旧松の湯」再生計画についてですが、平成20年度に市が取得して以来、さまざまな事業を展開し、いろいろな方々からの

たくさんの活用方法をいただけてまいりました。地元住民を初めとする一般市民の方や、弘前大学教育学部の皆さん、黒石商工会議所や黒石観光協会などの地元の団体の皆さんの御協力のもと、全国から建築を学んでいる大学院生たちが短期間滞在してまちづくりデザインを提案するシャレットワークショップ、市民公開シンポジウム、専門家ワーキングなど次々と開催してきました。そこから生まれた、施設の活用目的や管理運営体制などのソフト面と、それを生かすための設備などのハード面が計画の上にそのまま表現され、「誰もが自分の場所」として愛着を持てる施設づくりに生かされています。

今後、庁内の関係部課長、実務者等で構成する「まちなか活性化庁内検討会議」でさらに検討を重ね、黒石市の中心市街地の活性化に生かした計画を実行していく予定となっております。

次に、黒石市中町伝統的建造物群保存地区の保存計画のうち、「旧松の湯再生」に関する委託事業は、平成22年度、弘前大学教育学部居住学研究室に委託した「旧松の湯基本計画策定業務」、こちらのほうは199万400円です、これがあり、平成23年度は、株式会社アルキメディア設計研究所に「旧松の湯基本設計業務」、こちらのほうは550万2,000円を委託しました。平成24年度は2件あり、株式会社アルキメディア設計研究所に「旧松の湯実施計画業務」677万2,500円を、弘前大学教育学部には「旧松の湯再生計画策定業務～人々が交流し、地域が活性化する施設運営を目指して」、47万1,900円を委託しております。合計金額は1,474万5,800円であります。

次に、補助金についてですが、こちらのほうは鳴海邸住宅の庭園、高橋家住宅の庭園、西谷家住宅の庭園に平成18年度から187万8,000円を補助金として支出しております。

次、今回の補正予算には、旧松の湯の予算は計上してございません。それから、審議会の役割ですけれども、市長及び教育委員会の諮問に応じ、保存地区及び景観形成地区の保存等に関する重要事項について調査・審議し、これらの事項について市長及び教育委員会に建議することとなっております。以上です。

◎議長（中田博文） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 先ほどの答弁を訂正させていただきます。

先ほど私は、親元就農10人、独立経営15人と申しましたが、逆で親元就農が15人、独立経営が10人でございます。また、平均の経営面積は、今計算したところ92アール、約9反歩となっております。以上でございます。

◎議長（中田博文） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（中田博文） 再質問を許します。7番後藤秀憲議員。

◎7番（後藤秀憲） 御答弁ありがとうございました。伝建群についてですけど、伝建群の保存に関して、今まで各種団体がいろいろな提案をしており、また、その業務委託を実施し、私の知ってる限りでは、1億円近い支出をしております。きちんと計画を立てて、それを市民に説明し方向性を定めてから事業に取り組むべきだと思いますが、それをお知らせください。

また、旧松の湯は、平成20年だと思いますが、市が地権者から約2,200万円で購入しています。当時市はまだ財政再建の途中で、なぜこの時期に購入するのかと議論になりましたが、当時の教育長の説明では、財政再建に全力を挙げているので具体的な整備計画は決まっておらず、解体の心配もあったため事実上先行取得したということでした。今回25年度の予算に、工事請負費に3,700万円が計上されています。これは、旧松の湯の解体・新築費だと思いますが、どのような目的を持った施設となるのかわかっている範囲でお知らせください。

あと、流・融雪溝なんですけど、いろいろ頑張って計画しているようなんですけど、また昨年のような豪雪があったとき、流・融雪溝が未整備の通学路において、児童の安全をどのように確保する予定なのかお知らせいただきたいと思います。以上です。

◎議長（中田博文） 教育部長。

◎教育部長（奈良岡和保） まず、きちんと計画を立てということですけども、これまで基本計画を策定し、基本設計に基づき実施設計とした一連の動きとなっております。

松の湯の担う役割ということですけども、まず1つ目は、観光交流拠点としての役割を持ち、松を抱く象徴的な外観をそのままに復原され、黒石市中町伝統的建造物群保存地区内における中心的な施設として位置づけられています。内部には観光客の皆さんが満足できる休憩所や案内所、テナントなどを計画しており、黒石市の観光面における「エンジン」となり得る施設があります。

2つ目は、地域コミュニティ再生としての役割を持ち、地元住民を含む全市民の交流の場として、また、イベント会場としても利用できる憩いの空間となっております。

最後3つ目は、地域の防災拠点としての役割を持ち、敷地内に防火水槽とポンプ設備を備え、伝統的建造物群保存地区を災害から守り、いざという時の避難所としての利用も想定しています。

このように市民参加型のプロセスから生まれた機能を具現化した施設として、旧松の湯はこれからの黒石市を牽引する施設として生まれ変わっていくものと考えています。以上です。

◎議長（中田博文） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは、雪に強い地域づくりについての再質問、流・融雪溝未整備の通学路における安全確保についてお答えします。

降雪が連続した場合、機械除雪による雪寄せ、あるいは路肩への積み上げでは限界があるこ

とから、通学路など多くの児童や生徒が利用する道路については、特にパトロールの強化を図り、状況に応じて排雪作業を実施し、歩道や路肩、幅員を確保し、安全に通学できる環境づくりに努めてまいります。

また、昨年度は積雪深が180センチメートルと今までの記録を更新し、県内の市街地で最大となりましたが、地区あるいはP T Aの皆様の除排雪活動により、通学路を確保いただいたことに感謝申し上げます。また、第2雪置き場の設置、雪置き場の拡張、学校周辺の雪山処理の複数回の実施、また、豪雪対策本部が設置された際、市職員による学校周辺の排雪を実施するなど、今まで以上に市の除雪体制の強化を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

◎議長（中田博文） 以上で、7番後藤秀憲議員の一般質問を終わります。

◎議長（中田博文） 以上で、通告のありました一般質問は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午後 1時48分 散 会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

平成25年6月19日

黒石市議会議長 中田博文

黒石市議会議員 工藤禎子

黒石市議会議員 大久保朝泰